

大阪府立高校の図書システムについて

—学校図書館の情報センター化—

大阪府高等学校図書館研究会情報システム委員会
大阪府立佐野高校 富田 忍

1. 「図書システム」導入までの経緯
2. 「大阪府学校情報ネットワーク」と
「図書システム」
3. 成果と課題とこれからの展望

1. 「図書システム」導入までの経緯

「情報システム研究委員会」の発足と答申(1988~1989)

学校図書館情報化を研究するため

発足より現在まで活動している委員

大阪府立佐野高校	富田 忍、
東淀川高校	世羅田 順 治
港高校	高瀬 由佳
山田高校	西 田 治

最終報告

- (1) 府立高校において、個々に資料の管理・検索を目的としたいわゆる「図書館システム」の導入は、現状では**不必要ないし早計**である。
- (2) しかるべき時期に**府下一斉の共通システム**を導入することが望ましい。
- (3) システム化は、各学校図書館の利用実態に応じて**可塑性のある**もので、かつ**ネットワーク化**によって図書館相互の活用が図れるものとする。
- (4) ローカルデータ以外の書誌データは、**信頼性の高い**いずれかの**MARC**を用いて、**データの共通化と入力省力化**を図るものとする。

(『学校図書館へのコンピュータ導入』全国SLA1990年)

2. 「大阪府学校情報ネットワーク」 と「図書システム」

「大阪府学校情報ネットワーク」と第1次図書システム

大阪府教委は「府立高校学校教育充実関連施策」を策定

(2000年2月)

その一つとして、「学校情報ネットワーク」整備事業が展開

<http://www.osaka-c.ed.jp/kak/jyouhou/jyoho/osakanet.htm>

(「全校で生徒がいつでもインターネットを使えるようになります」)

司書室 サーバ



図書閲覧室



図書館には5台の固定端末が設置

第1次図書システム

「学校情報ネットワーク」整備事業に付随

- 将来的に府立高校間の相互検索が可能
(横断検索)
- 各校の資料組織の現状に柔軟に対応
- データ構築にMARCが活用できること

2001年3月に「学校図書館蔵書管理システム」が完成
府教委主催のソフトウェアの講習会

大阪府学校情報ネットワーク の更新に伴う改善要望

「第1次図書システム (学校図書館蔵書管理システム)」の問題点

- 「トータル」システムとしては未完成
大規模なデータベースを構築するための制約
データ更新や手入力の支援機能がない
蔵書点検の事後処理が不便
- TRCDの使用料

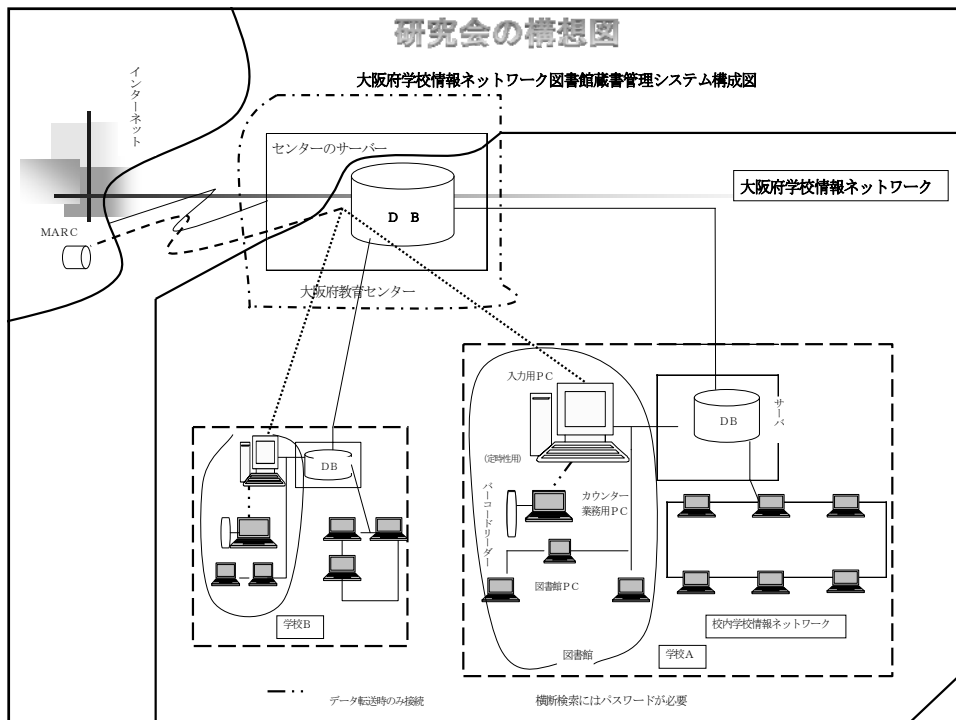
研究指定校 10校

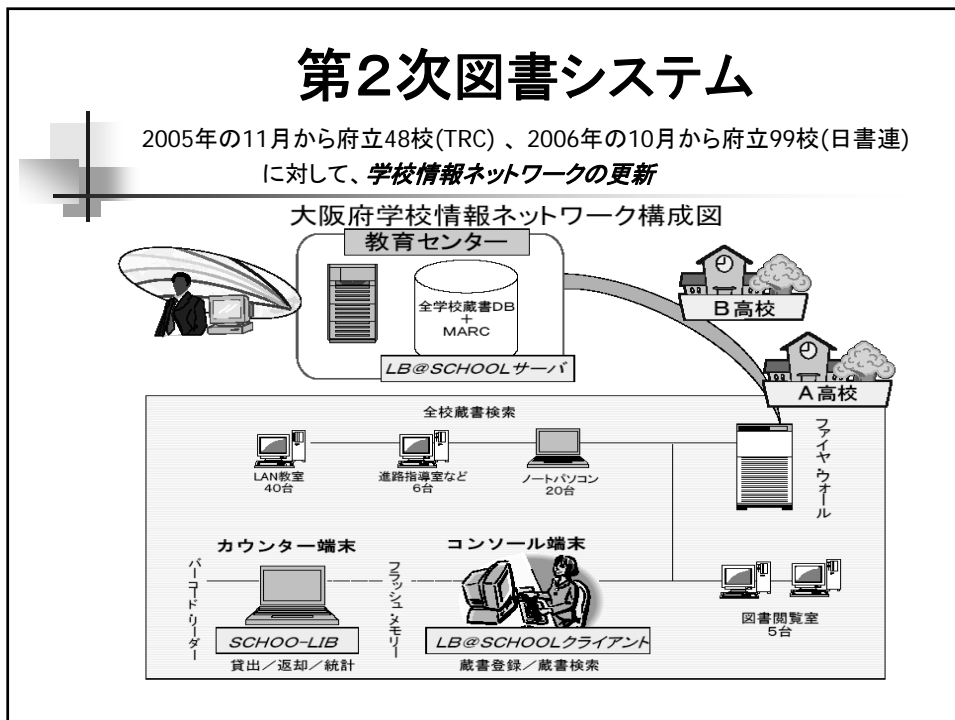
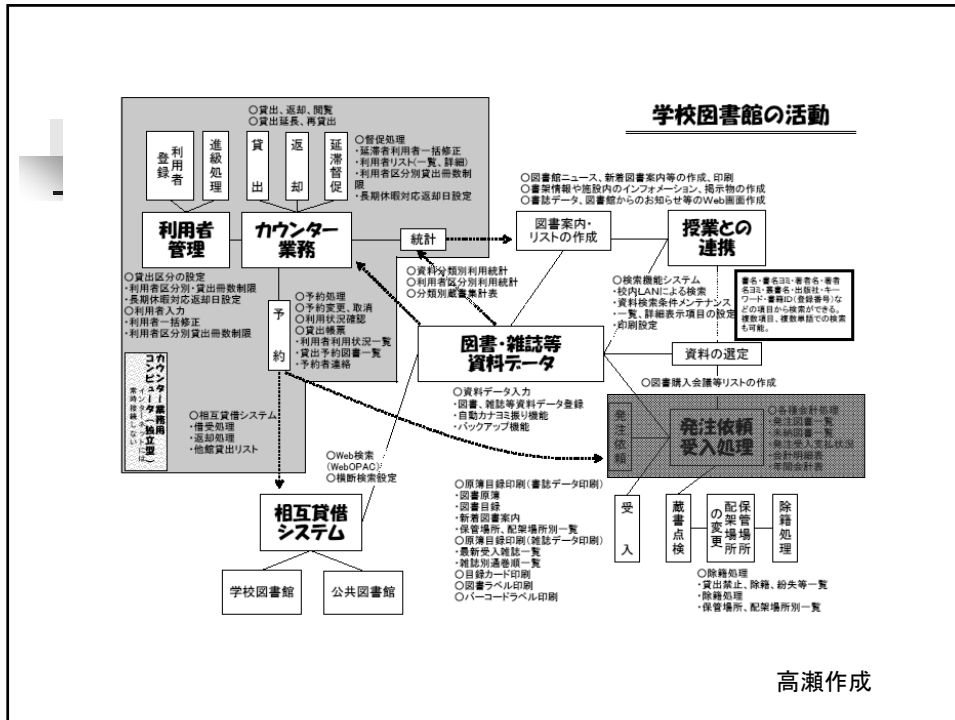
「学校情報ネットワーク」の更新にともなう 図書館蔵書管理ソフトの改善要請

学校情報ネットワークの更新にともなう
新たな図書館蔵書管理ソフトの改善要請について
大阪府高等学校図書館研究会

府高図研役員会にて、改善要請案を決定(2004. 6. 16)
7. 4の総会にて承認

『大阪府学校情報ネットワーク図書館蔵書管理システム図』





第3次図書システム

2010年の10月から府立44校、
2011年の10月から府立94校に対して、
学校情報ネットワークの更新

- MARKの一本化
(TRC) → (日書連)
MARKを切り離して入札

図書システムのサポート

- 府立高校(イントラネット)のサポート
図書システムに付随
(FJMが保守サポート)
- 大阪府高等学校図書館研究会
HP(インターネット)
<http://www.ohs-lib.net/>

第3次図書システムの内容

<http://www.ohs-lib.net/modules/tinyd0/fuzitu12.pdf>

- FJM
- 日書連のマーク
- 横断検索
- 138校のデータ数
2568096
(1校あたり18609)
2012.10.1現在

3. 成果と課題とこれからの展望

成果 図書館の活性化事例 ① ②
課題

(1) MARC

<TRC>MARCから<日書連>MARC

→ NDL(国立国会図書館)のデータ

(2) 学校司書の削減問題

2002「新行財政計画」から

実習助手の削減(図書館担当者の不補充)

09実態調査報告

(3) 学校図書館活性化ガイドライン

http://www.pref.osaka.jp/kotogakko/gakko_toshokan/index.html

司書教諭の時間減(2時間)



パートナーシップの構築を

＜司書教諭研修会＞ (2006.12.22 から)

図書館にかかわる人…学校司書と司書教諭 が互いの専門の仕事を活かし、カバーし合えるよきパートナーとなって、

- 日常的な資料提供とサービスで、
利用者に豊かな図書館体験をしてもらう。
- 生徒の生育過程で、
学校図書館が有効に寄与できる活動を模索する。
- 学校図書館の役割を広めて利用者を増やす。

各教科との連携

合同研究例会の開催

(共通課題を通じて学校教育の諸局面に
有効に寄与できるようにする)

- 第1回大阪府高等学校国語研究会と合同例会
- 第2回大阪府高等学校地歴・公民科研究会と合同例会
- 第3回大阪府高等学校英語科研究会と合同例会

(本研究会のHP参照)

学校図書館の存在のアピール

公共図書館との連携

- 大阪府立中央図書館

<http://www.ohs-lib.net/modules/tinyd0/soukaikouen.pdf>

- 大阪市立中央図書館

書評漫オグランプリ

<http://www.ohs-lib.net/modules/news/article.php?storyid=69>

国立国会図書館との連携

- レファランス協同データベース

<http://www.ohs-lib.net/modules/tinyd0/index.php?id=27>

- NDLサーチ

<http://iss.ndl.go.jp/information/outline/>

- NDL－OPAC

- 公共図書館等における

NDL－OPAC書誌データの利用

<https://www.ndl.go.jp/jp/library/data/download.html>

レファレンス協同データベース

- <http://crd.ndl.go.jp/jp/public/>
- レファレンス協同データベースを
学校図書館で活用しよう！
- <http://www.ohs-lib.net/modules/tinyd0/schoolrefa.pdf>
〈国立国会図書館関西館レファ協事務局〉

レファレンス協同データベースの活用報告

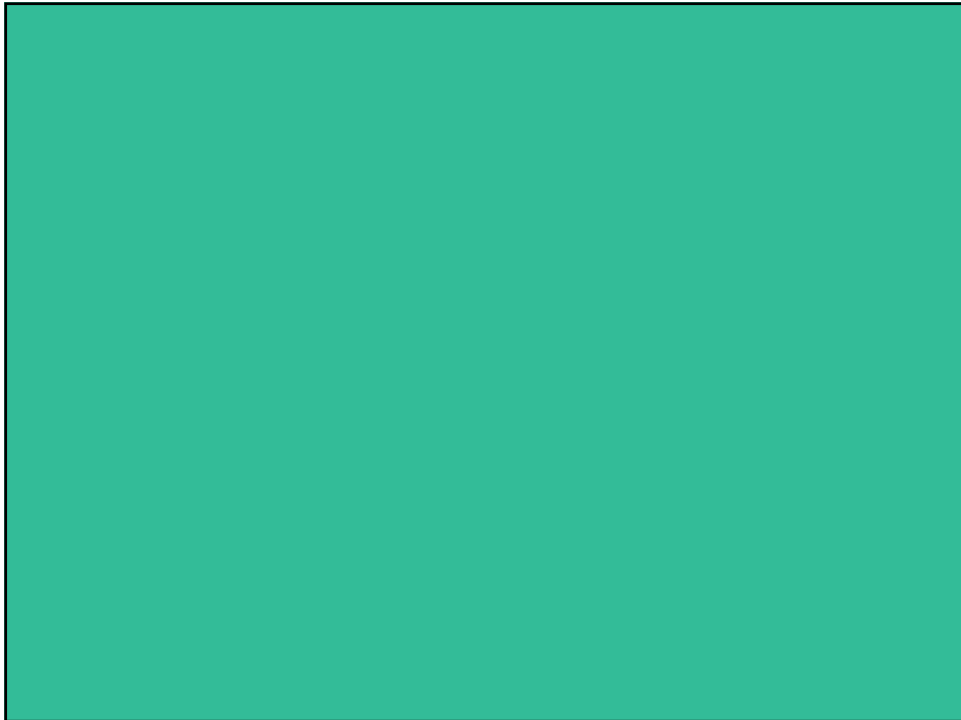
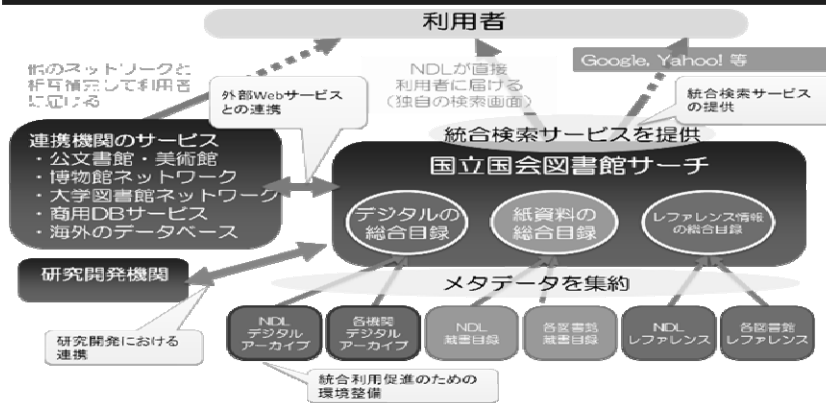
- 京都府立高等学校図書館協議会司書部会
レファレンス協同データベースの活用について

学校図書館がグループとして参加するには、職員がある程度安定した勤務条件であることも大切な要素であると考えます。

http://crd.ndl.go.jp/jp/library/documents/report_kyoto-shishobukai.pdf

国立国会図書館サーチについて (NDLサーチ)

国立国会図書館サーチが目指す方向性



歴史的音源



NDLサーチで検索できるデジタル化資料
(<http://dl.ndl.go.jp/#music>)

NDL—OPAC



NDL－OPACの登録利用者(機関)

所蔵資料を詳しく検索する場合や、複写などのサービスの窓口

<http://www.ndl.go.jp/jp/service/attention.html>

その他の参考URL

- **新着書誌情報サービスについて**
<http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/syos-hiservice.html#1>
- **公共図書館等におけるNDL-OPAC書誌データの利用について**
<https://www.ndl.go.jp/jp/library/data/download.html>